

地元自治体等からの意見

- 長野県知事からの意見
- 各自治体等からの意見書
- 地元要望書

【目次】

○長野県知事からの意見

平成24年 3月 7日 長野県知事 1

○各自治体等の意見書

平成23年12月 2日 長野県 2

平成23年12月20日 小諸市 3

平成23年12月22日 佐久市 4

平成23年12月21日 小海町 5

平成23年12月15日 川上村 6

平成23年12月20日 南牧村 7

平成23年12月22日 南相木村 8

平成23年12月15日 北相木村 9

平成23年12月22日 佐久穂町 10

平成24年 3月 6日 山梨県 11

平成24年 3月16日 北杜市 12

○地元要望書

平成24年 2月14日 南佐久郡町村会、南佐久郡土木協議会、
南佐久地域の農協、商工会他 13

平成24年 2月14日 佐久市議会 14

平成24年 2月17日 山梨県高速道路整備促進期成同盟会
中部横断自動車道整備促進山梨県峡北
地域連絡協議会他 15

平成24年 2月28日 北杜市商工会、観光協会、
青年会議書シニアクラブ 16

平成24年 2月28日 山梨県商工会連合会等12団体 17

○ 長野県知事からの意見

国土交通省
関東地方整備局長
下保 修 様

要 請 書

長 野 県

日頃、本県の道路行政に対しまして、ご高配を賜り心より御礼申し上げます。

また、一昨年末より試行されている、中部横断自動車道（長坂JCT～八千穂間）の計画段階評価につきまして、大変ご尽力いただいていることに重ねて感謝申し上げます。

さて、中部横断自動車道（長坂JCT～八千穂間）の計画段階評価の第2回アンケートの質問内容において、疑問に思われる点があるので意見を申し上げます。

具体的に申し上げますと、案3の「国道141号（一般道）改良案」の所要時間は、「現状の信号交差点は残る」のに「信号交差点がない場合で算出」されており、実際と異なる値となっております。

このため但し書きはあるものの、現道改良（案）は新たな道路の整備に比べ、安い費用で時間短縮が図れるとの誤った認識を与えたのではないかと危惧しております。

また、現状の土地利用や地形を見ましても、国道141号は人家が密集した箇所や、千曲川と並行しているが故、急峻な地形を縫うように走る箇所が多数有り、案3の「4車線で改良する」ことは、極めて厳しいものと思慮されます。

佐久地域にとっては住民の「命の道」、主要産業である農産物の「物流の道」として、また、長野県にとっては日本海と太平洋を結ぶ「広域交流の道」として、中部横断自動車道が安全性、快適性、定時性の高い高速道路として整備されることを待ち望んでおります。

さらに、中部横断自動車道は、災害に強い国土形成のためにも不可欠な道路であると考えております。

については、アンケートの分析・解析にあたっては、上記の意見を十分勘案いただき、社会資本整備審議会道路分科会関東地方小委員会への説明、報告を行うよう強く要請いたします。

平成24年3月5日

長野県知事 阿部 守一



○ 各自治体等の意見書（長野県）



website 信州
長野県公式ホームページ



[トップページ](#)
[目的でさがす](#)
[分野でさがす](#)
[組織でさがす](#)
[サイトマップ](#)
[使い方ガイド](#)

最終更新日: 2011年

[\[県議会のトップ\]](#) [\[定例会の状況\]](#)

議員提出議案一覧（平成23年11月定例会）

- 平成23年11月定例会提出分

議案番号	件名	議決年月日	議決結果
議第1号	環太平洋パートナーシップ（TPP）協定交渉への拙速な参加表明に抗議し、国民への十分な説明を求める意見書（案）	平成23年12月2日	原案可決
議第2号	鳥獣被害防止対策の充実を求める意見書（案）	平成23年12月2日	原案可決
議第3号	国民生活の安心と向上を図るための基金事業の継続を求める意見書（案）	平成23年12月2日	原案可決
議第4号	介護職員等の恒久的な処遇改善につながる制度の確立を求める意見書（案）	平成23年12月2日	原案可決
議第5号	サイバー攻撃に対する情報セキュリティ対策の強化を求める意見書（案）	平成23年12月2日	原案可決
議第6号	山岳環境の保全対策の強化を求める意見書（案）	平成23年12月2日	原案可決
議第7号	県民等の意見を十分に反映した新たな総合5か年計画の策定及び「未来への提言」の廃止を求める決議（案）	平成23年12月2日	原案可決
議第8号	中部横断自動車道の建設促進を求める意見書（案）	平成23年12月2日	原案可決

議員提出議案2311
6/6 ページ

年 月 日

衆議院議長
参議院議長
内閣総理大臣 あて
財務大臣
国土交通大臣

議長 名

地方自治法第99条の規定により、下記のとおり意見書を提出します。

記

中部横断自動車道の全線整備は、物流体系の再編、交流圏の拡大、広域観光の振興等を促進し、沿線地域の産業・経済・観光・文化等に大きな活力を与えるなど、その効果は計り知れないものがある。

また、中部横断自動車道は、東海地震等重大な災害の発生が危惧される中で、広域的な防災体制を強化するとともに、緊急輸送路としての役割を担うなど、住民の安全・安心に不可欠な「命の道」として、重要な社会資本である。

しかしながら、中部横断自動車道には、基本計画区間が残されており、高速道路の整備による効果を最大限に発揮するためには、未整備区間の解消が急務である。

よって、国においては、中部横断自動車道の建設促進に向け、次の事項について、必要な措置を講じるよう強く要請する。

- 基本計画区間である八千穂インターチェンジ（仮称）～山梨県の長坂ジャンクション（仮称）間について、早期に整備計画区間へ格上げすること。
- 佐久南インターチェンジ～八千穂インターチェンジ（仮称）間について、早期完成に向け十分な予算措置を講じること。

[このページのトップへ](#)

[\[定例会の状況\]](#) [\[県議会のトップ\]](#)

▲このページのトップへ

<お問い合わせ先>
■このページに関するご質問及びご意見は、[議会事務局調査課](#)までメールもしくは下記にご連絡ください。

Tel 026-235-7414 / Fax 026-235-7363

県庁舎案内 | 電話・FAX・メールアドレス一覧 | 個人情報について | リンクについて | このサイトの考え方
Copyright Nagano Prefecture All Right Reserved.

○ 各自治体等の意見書（佐久市）

決議案第2号

中部横断自動車道の早期全線整備を求める決議について

別紙のとおり決議するものとする。

平成23年12月

中部横断自動車道の早期全線整備を求める決議

高速道路は、日本の経済を支える物流の要であり、人々の暮らしを支える生命線であります。

平成23年3月11日に発生した東日本大震災では、壊滅的な被害により、鉄道や港湾施設が機能できない中、高速道路が早期に復旧したことにより、緊急輸送の基軸として多大な効果を発揮し、真に被災地の方々の生命線となりました。

この災害を教訓として、改めて災害に強い国土づくり、特に日本海と太平洋を結ぶネットワーク強化の必要性が認識されたところです。

中部横断自動車道は、東海地震等による重大な災害の発生が危惧される中で、広域的防災体制の強化に必要な緊急輸送路としての役割を担うばかりでなく、医療過疎地域への救急搬送手段の提供など多様な住民福祉を提供する機能も兼ね備える、沿線住民の生活にも密接した「命の道」です。

また、中部横断自動車道は、静岡、山梨、長野、新潟の4県を結び、東名、新東名、中央、関越、北陸の5つの高速道路と接続し、「関東大環状連携軸」を形成する路線となり、物流体系の再編、交流圏の拡大、広域的観光ゾーンの形成などを促進し、交流人口の創出に大きく貢献する「真に必要な道路」であり、その整備効果は計り知れないものがあります。

高速道路はネットワーク化されてこそ、その効果を発揮するものであるにもかかわらず、中部横断自動車道には基本計画区間が残されており、真の効果を最大限に発揮するには、このミッシングリンクの解消が急務と考えます。

よって、基本計画区間である八千穂インターチェンジ（仮称）－山梨県長坂ジャンクション（仮称）間の早期整備計画区間への格上げ及び佐久南インターチェンジ－八千穂インターチェンジ（仮称）間の早期供用開始を含め、中部横断自動車道の早期全線整備を強く要望します。

以上、決議する。

平成23年12月

意見書案第11号

中部横断自動車道の早期全線整備を求める意見書の提出について

地方自治法第99条の規定により、国会・関係行政庁に対し、別紙のとおり意見書を提出するものとする

平成23年12月22日

提
賛

平成23年12月22日

中部横断自動車道の早期全線整備を求める意見書

高速道路は、日本の経済を支える物流の要であり、人々の暮らしを支える生命線である。

平成23年3月11日に発生した東日本大震災では、壊滅的な被害により、鉄道や港湾施設が機能できない中、高速道路が早期に復旧したことにより、緊急輸送の基軸として多大な効果を発揮し、真に被災地の方々の生命線となった。

この災害を教訓として、改めて災害に強い国土づくり、特に日本海と太平洋を結ぶネットワーク強化の必要性が認識された。

中部横断自動車道は、東海地震等による重大な災害の発生が危惧される中で、広域的防災体制の強化に必要な緊急輸送路としての役割を担うばかりでなく、医療過疎地域への救急搬送手段の提供など多様な住民福祉を提供する機能も兼ね備える、沿線住民の生活にも密接した「命の道」である。

また、中部横断自動車道は、静岡、山梨、長野、新潟の4県を結び、東名、新東名、中央、関越、北陸の5つの高速道路と接続し、「関東大環状連携軸」を形成する路線となり、物流体系の再編、交流圏の拡大、広域的観光ゾーンの形成などを促進し、交流人口の創出に大きく貢献する「真に必要な道路」であり、その整備効果は計り知れないものがある。

高速道路はネットワーク化されてこそ、その効果を発揮するものであるにもかかわらず、中部横断自動車道には基本計画区間が残されており、真の効果を最大限に発揮するには、このミッシングリンクの解消が急務である。

よって、中部横断自動車道の早期全線整備を強く要望する。

記

1. 基本計画区間である八千穂インターチェンジ（仮称）－山梨県長坂ジャンクション（仮称）間の早期整備計画区間への格上げ
2. 佐久南インターチェンジ－八千穂インターチェンジ（仮称）間の早期供用開始

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

提出先 衆議院議長

○ 各自治体等の意見書（小海町）



中部横断自動車道の早期全線開通を求める意見書

衆議院議長 横路孝弘 様
参議院議長 平田健二 様
内閣総理大臣 野田佳彦 様
国土交通大臣 前田武志 様
財務大臣 安住淳 様

平成23年3月11日に発生した東日本大震災では、鉄道や港湾施設が壊滅的な被害を受け、高速道路が早期に回復したことにより、多大な効果を発揮し、緊急輸送の基軸となりました。

この災害を教訓として、改めて災害に強い国土づくり、特に日本海と太平洋を結ぶネットワーク強化の必要性が認識されています。

中部横断自動車道は、東海地震等による重大な災害の発生が危惧される中で、広域的防災体制を強化するとともに、緊急輸送路としての役割を担うばかりでなく、救急医療など住民福祉の多様な機能も兼ね備える、沿線住民の生活に密接した「命の道」であります。

また、中部横断自動車道の全線整備は、静岡、山梨、長野、新潟の4県を結び、東名、新東名、中央、関越、北陸の5つの高速道路と接続し、「関東大環状連携軸」を形成する路線となり、物流体系の再編、交流圏の拡大、広域的観光ゾーンの形成などを促進し、交流人口の創出に大きく貢献する「真に必要な道路」であり、その整備効果は計り知れないものがあります。

しかし、中部横断自動車道には基本計画区間が残されており、高速道路の効果を最大限に発揮するには、ミッシングリンクの解消が急務であると考えます。よって、中部横断自動車道の早期全線整備を強く要望します。

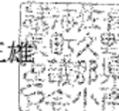
記

1. 基本計画区間である八千穂インターチェンジ（仮称）－山梨県長坂ジャンクション（仮称）間を早期整備計画区間へ格上げすること。
2. 佐久南インターチェンジ－八千穂インターチェンジ（仮称）間を早期に供用開始すること。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出いたします。

平成23年12月21日

長野県小海町議会
議長 佐藤二三雄



○ 各自治体等の意見書（川上村）

発議第2号

平成23年12月15日

川上村議会議長 由井美成様

提出者 由井博美 

賛成者 林直 

〃 由井雅久 

〃 伊藤清三郎 

中部横断自動車道の早期全線開通を求める意見書の提出について

上記の議案を、別紙のとおり会議規則第14条第1項及び第2項の規定により提出します。

中部横断自動車道の早期全線開通を求める意見書

平成23年3月11日に発生した東日本大震災では、鉄道や港湾施設が壊滅的な被害を受ける中で、高速道路が早期に回復したことにより、多大な効果を発揮し、緊急輸送の基軸となりました。

この災害を教訓として、改めて災害に強い国土づくり、特に日本海と太平洋を結ぶネットワーク強化の必要性が認識されています。

中部横断自動車道は、東海地震等による重大な災害の発生が危惧される中で、広域的防災体制を強化するとともに、緊急輸送路としての役割を担うばかりでなく、救急医療など住民福祉の多様な機能も兼ね備える、沿線住民の生活に密接した「命の道」であります。

また、中部横断自動車道の全線整備は、静岡、山梨、長野、新潟の4県を結び、東名、新東名、中央、関越、北陸の5つの高速道路と接続し、「関東大環状連携軸」を形成する路線となり、物流体系の再編、交流圏の拡大、広域的観光ゾーンの形成などを促進し、交流人口の創出に大きく貢献する「真に必要な道路」であり、その整備効果は計り知れないものがあります。

しかし、中部横断自動車道には基本計画区間が残されており、高速道路の効果を最大限に発揮するには、ミッシングリンクの解消が急務であると考えます。

よって、中部横断自動車道の早期全線整備を強く要望します。

記

1. 基本計画区間である八千穂インターチェンジ（仮称）－山梨県長坂ジャンクション（仮称）間を早期整備計画区間へ格上げすること。
2. 佐久南インターチェンジ－八千穂インターチェンジ（仮称）間を早期に供用開始すること。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出いたします。

平成23年12月15日

長野県 川上村議会

提出先 衆議院議長 様
参議院議長 様
内閣総理大臣 様
国土交通大臣 様
財務大臣 様

○ 各自治体等の意見書（南牧村）



中部横断自動車道の早期全線開通を求める意見書

平成23年3月11日に発生した東日本大震災では、鉄道や港湾施設が壊滅的な被害を受ける中で、高速道路が早期に回復したことにより、多大な効果を発揮し、緊急輸送の基軸となったことをご承知のことと思います。

この災害を教訓として、改めて災害に強い国土づくり、特に日本海と太平洋を結ぶネットワーク強化の必要性が認識されました。

中部横断自動車道は、東海地震等による重大な災害の発生が危惧される中で、広域的防災体制を強化するとともに、緊急輸送路としての役割を担うばかりでなく、救急医療など住民福祉の多様な機能も兼ね備える、「命の道」として沿線住民は早期実現を切望しています。

また、中部横断自動車道の全線開通は、静岡、山梨、長野、新潟の4県を結び、東名、新東名、中央、関越、北陸の5つの高速道路と接続し、「関東大環状連携軸」を形成する路線となり、物流体系の再編、交流圏の拡大、広域的観光ゾーンの形成などを促進し、交流人口の創出に大きく貢献する「真に必要な道路」であり、その整備効果は計り知れないものがあります。

しかし、中部横断自動車道には基本計画区間が残されており、高速道路の効果を最大限に発揮するには、ミッシングリンクの解消が急務であると考えます。

よって、中部横断自動車道の早期全線整備を強く要望します。

記

1. 基本計画区間である八千穂インターチェンジ（仮称）－山梨県長坂ジャンクション（仮称）間の早期整備計画区間への格上げ
2. 佐久南インターチェンジ－八千穂インターチェンジ（仮称）間の早期供用開始

以上、地方自治法第99条の規定により、意見書を提出します。

平成23年12月20日

長野県南牧村議会



内閣総理大臣 野田 佳彦 殿



中部横断自動車道の早期全線開通を求める意見書

平成23年3月11日に発生した東日本大震災では、鉄道や港湾施設が壊滅的な被害を受ける中で、高速道路が早期に回復したことにより、多大な効果を発揮し、緊急輸送の基軸となったことをご承知のことと思います。

この災害を教訓として、改めて災害に強い国土づくり、特に日本海と太平洋を結ぶネットワーク強化の必要性が認識されました。

中部横断自動車道は、東海地震等による重大な災害の発生が危惧される中で、広域的防災体制を強化するとともに、緊急輸送路としての役割を担うばかりでなく、救急医療など住民福祉の多様な機能も兼ね備える、「命の道」として沿線住民は早期実現を切望しています。

また、中部横断自動車道の全線開通は、静岡、山梨、長野、新潟の4県を結び、東名、新東名、中央、関越、北陸の5つの高速道路と接続し、「関東大環状連携軸」を形成する路線となり、物流体系の再編、交流圏の拡大、広域的観光ゾーンの形成などを促進し、交流人口の創出に大きく貢献する「真に必要な道路」であり、その整備効果は計り知れないものがあります。

しかし、中部横断自動車道には基本計画区間が残されており、高速道路の効果を最大限に発揮するには、ミッシングリンクの解消が急務であると考えます。

よって、中部横断自動車道の早期全線整備を強く要望します。

記

1. 基本計画区間である八千穂インターチェンジ（仮称）－山梨県長坂ジャンクション（仮称）間の早期整備計画区間への格上げ
2. 佐久南インターチェンジ－八千穂インターチェンジ（仮称）間の早期供用開始

以上、地方自治法第99条の規定により、意見書を提出します。

平成23年12月20日

長野県南牧村議会



国土交通大臣 前田 武志 殿

○ 各自治体等の意見書（南相木村）

中部横断自動車道の早期全線整備を求める意見書



平成23年12月22日

衆議院議長 横路孝弘 様
参議院議長 平田健二 様
内閣総理大臣 野田佳彦 様
国土交通大臣 前田武志 様
財務大臣 安住 淳 様

長野県南佐久郡南相木村議会議長 中島 常 夫



平成23年3月11日に発生した東日本大震災では、鉄道や港湾施設が壊滅的な被害により機能できない中、高速道路が早期に復旧したことにより、緊急輸送の基軸として多大な効果を発揮し、被災地の方々の生命線となりました。

この災害を教訓として、改めて災害に強い国土づくり、特に日本海と太平洋を結ぶネットワーク強化の必要性が再確認されました。高速道路は、日本の経済を支える物流の要であり、人々の暮らしを支える正に生命線であります。

中部横断自動車道は、東海地震等による重大な災害の発生が危惧される中で、広域的防災体制の強化に必要な緊急輸送路としての役割を担うばかりでなく、医療過疎地域への救急搬送手段の提供など多様な住民福祉を提供する機能も兼ね備える、沿線住民の生活に密接した「命の道」です。

また、中部横断自動車道は、静岡、山梨、長野、新潟の4県を結び、東名、新東名、中央、関越、北陸の5つの高速道路と接続し、「関東大環状連携軸」を形成する路線となり、物流体系の再編、交流圏の拡大、広域的観光ゾーンの形成などを促進し、交流人口の創出に大きく貢献する「真に必要な道路」であり、その整備効果は計り知れないものがあります。

高速道路はネットワーク化されてこそ、その効果を発揮するものであるにもかかわらず、中部横断自動車道には基本計画区間が残されており、真の効果を最大限に発揮するには、このミッシングリンクの解消が急務です。

ここに、下記による中部横断自動車道の早期全線整備を強く要望します。

記

1. 基本計画区間である八千穂インターチェンジ（仮称）－山梨県長坂ジャンクション（仮称）間の早期整備計画区間への格上げ
2. 佐久南インターチェンジ－八千穂インターチェンジ（仮称）間の早期供用開始

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

○ 各自治体等の意見書（北相木村）

中部横断自動車道の早期全線開通を求める意見書

平成23年3月11日に発生した東日本大震災では、鉄道や港湾施設が壊滅的な被害を受ける中で、高速道路が早期に回復したことにより、多大な効果を発揮し、緊急輸送の基軸となった。

この災害を教訓として、改めて災害に強い国土づくり、特に日本海と太平洋を結ぶネットワーク強化の必要性が認識された。

中部横断自動車道は、東海地震等による重大な災害の発生が危惧される中で、広域的防災体制を強化するとともに、緊急輸送路としての役割を担うばかりでなく、救急医療など住民福祉の多様な機能も兼ね備える、沿線住民の生活に密接した「命の道」である。

また、中部横断自動車道の全線整備は、静岡、山梨、長野、新潟の4県を結び、東名、新東名、中央、関越、北陸の5つの高速道路と接続し、「関東大環状連携軸」を形成する路線となり、物流体系の再編、交流圏の拡大、広域的観光ゾーンの形成などを促進し、交流人口の創出に大きく貢献する「真に必要な道路」であり、その整備効果は計り知れないものがある。

しかし、中部横断自動車道には基本計画区間が残されており、高速道路の効果を最大限に発揮するには、ミッシングリンクの解消が急務であると考え、よって、中部横断自動車道の早期全線整備を強く要望する。

記

1. 基本計画区間である八千穂インターチェンジ（仮称）ー山梨県長坂ジャンクション（仮称）間の早期整備計画区間への格上げ
2. 佐久南インターチェンジー八千穂インターチェンジ（仮称）間の早期供用開始

以上、地方自治法第99条の規定により、下記のとおり意見書を提出します。

平成23年12月15日

北相木村議会議員 木次 孝 茂



衆議院議長 横路孝弘 様
参議院議長 平田健二 様
内閣総理大臣 野田佳彦 様
国土交通大臣 前田武志 様
財務大臣 安住 淳 様

○ 各自治体等の意見書（佐久穂町）

中部横断自動車道の早期全線開通を求める意見書

平成23年12月22日

内閣総理大臣 野田佳彦様

長野県南佐久郡佐久穂町議会
議長 今井邦三



地方自治法第99条の規定により、下記のとおり意見書を提出します。

記

中部横断自動車道の全線整備は、物流体系の再編、交流圏の拡大、広域観光の振興等を促進し、沿線地域の産業・経済・観光・文化等に大きな活力を与えるなど、その効果は計り知れないものがある。

また、中部横断自動車道は、東海地震等重大な災害の発生が危惧される中で、広域的な防災体制を強化するとともに、緊急輸送路としての役割を担うなど、住民の安全・安心に不可欠な「命の道」として、重要な社会資本である。

しかしながら、中部横断自動車道には、基本計画区間が残されており、高速道路の整備による効果を最大限に発揮するためには、未整備区間の解消が急務である。

よって、国においては、中部横断自動車道の建設促進に向け、次の事項について、全線開通に必要な措置を早期に講じるよう強く要請する。

- 1 基本計画区間である八千穂インターチェンジ（仮称）～山梨県の長坂ジャンクション（仮称）間について、早期に整備計画区間へ格上げすること。
- 2 佐久南インターチェンジ～八千穂インターチェンジ（仮称）間について、早期完成に向け十分な予算措置を講じること。

中部横断自動車道の早期全線開通を求める意見書

平成23年12月22日

国土交通大臣 前田武志様

長野県南佐久郡佐久穂町議会
議長 今井邦三



地方自治法第99条の規定により、下記のとおり意見書を提出します。

記

中部横断自動車道の全線整備は、物流体系の再編、交流圏の拡大、広域観光の振興等を促進し、沿線地域の産業・経済・観光・文化等に大きな活力を与えるなど、その効果は計り知れないものがある。

また、中部横断自動車道は、東海地震等重大な災害の発生が危惧される中で、広域的な防災体制を強化するとともに、緊急輸送路としての役割を担うなど、住民の安全・安心に不可欠な「命の道」として、重要な社会資本である。

しかしながら、中部横断自動車道には、基本計画区間が残されており、高速道路の整備による効果を最大限に発揮するためには、未整備区間の解消が急務である。

よって、国においては、中部横断自動車道の建設促進に向け、次の事項について、全線開通に必要な措置を早期に講じるよう強く要請する。

- 1 基本計画区間である八千穂インターチェンジ（仮称）～山梨県の長坂ジャンクション（仮称）間について、早期に整備計画区間へ格上げすること。
- 2 佐久南インターチェンジ～八千穂インターチェンジ（仮称）間について、早期完成に向け十分な予算措置を講じること。

○ 各自治体等の意見書（山梨県）

議第3号

中部横断自動車道の建設促進を求める意見書

中部横断自動車道は、国土の中央部で太平洋と日本海をつなぐ高速道路であり、その全線整備により、内陸地と臨海地との緊密な連携、物流体系の再編、交流圏の拡大、広域観光ゾーンの形成等が促進され、沿線地域の産業・経済・観光・文化等に大きな活力を与えるなど、その効果は計り知れないものと期待されている。

また、東海地震等による重大な災害の発生が危惧される中で、中部横断自動車道は、広域的な防災体制を強化するとともに、緊急輸送路としての役割を担うなど、住民の安全・安心に不可欠な「命の道」として重要な社会資本である。

しかしながら、中部横断自動車道には、基本計画区間が残されており、高速道路の整備による効果を最大限に発揮するためには、未整備区間の解消が急務である。

あわせて、既に事業着手している区間については、一日も早く沿線住民の利便性を向上させることができるよう、早期の供用を望むものである。

よって、国においては、中部横断自動車道の建設促進に向け、次の事項について、必要な措置を講じるよう強く要望する。

- 1 基本計画区間である（仮称）長坂ジャンクションから（仮称）八千穂インターチェンジ間について、整備計画区間への格上げと事業着手を行うと共に、周辺環境や景観に配慮した計画として、旧清里有料道路の利用や暫定2車線での整備等により早期供用を図ること。
- 2 直轄高速方式により整備している（仮称）富沢インターチェンジから（仮称）六郷インターチェンジ間について、有料道路方式により整備している区間の供用にあわせた確実な整備を行うため、十分な予算措置を講じると共に、工事の進捗を図り、平成29年度までに増穂インターチェンジ以南全線の開通を図ること。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

平成24年3月6日

山梨県議会議長名

提出先

衆議院議長 参議院議長
内閣総理大臣 財務大臣
国土交通大臣

提出者 山梨県議会議員

清水武則 皆川 巖 高野 剛
武川 勉 望月清賢 森屋 宏
丹澤和平 樋口雄一 土橋 亨

○ 各自治体等の意見書（北杜市）

発議第1号

平成24年3月16日

北杜市議会議長 秋山俊和様

提出者 北杜市議会議員 小尾直知
賛成者 北杜市議会議員 中山宏樹
北杜市議会議員 坂本 静
北杜市議会議員 千野秀一
北杜市議会議員 清水壽昌

中部日本横断自動車道の早期実現を求める意見書の提出について

上記の議案を、別紙のとおり会議規則第14条第2項の規定により提出する。

提案理由

中部日本横断自動車道は、広域的防災体制の強化に寄与し、災害発生時の緊急輸送路としての役割を担うものであるとともに、沿線地域の産業・経済・観光・文化等、さまざまな分野の活性化に大きく貢献するものと期待をすることから、その整備促進を図るため、この案を提出するものである。

中部日本横断自動車道の早期実現を求める意見書（案）

中部日本横断自動車道の北杜市から佐久穂町間（L=34km）につきましては、未だ基本計画区間から整備計画区間への格上げが実現されず、先行き不透明な状況が続いております。

昨年3月11日に発生した東日本大震災では、鉄道及び一般国道等が機能しない状況の中で、高速道路が国や関係機関の広域的かつ機動的な対応により早期に開通し、「命の道」として絶大な効果を発揮し、緊急輸送の基軸となったことは記憶に新しいところです。この震災を教訓として、改めて災害に強い国土づくり、特に地方と都市を結ぶネットワークの強化の必要性が認識されたところです。

中部日本横断自動車道は、広域的防災体制の強化に寄与し、緊急輸送路としての役割を担うものであることから、東海地震等による重大な災害の発生が危惧される北杜市においても、防災、住民の安全安心に不可欠な「命をつなぐ道」として、重要な役割を果たすものであります。

また、中部日本横断自動車道の実現は、東名・新東名・中央・関越・北陸の5つの高速道路を有機的に連結するもので、臨海工業地帯と内陸工業地帯との緊密な連携、物流体系の再編、交流圏の拡大、広域的観光ゾーンの形成などを促進し、沿線地域の産業・経済・観光・文化等に大きな活力を与えるものでもあります。

この道路整備は、新たな「人の流れと物流」を創出するものであり、中央自動車道との連結点となる北杜市においても、観光及び商工を始め、さまざまな分野の活性化に大きく貢献するものと期待を寄せているところです。

つきましては、中部日本横断自動車道の整備促進に向け、次の事項の実現を強く求めます。

記

1. 基本計画区間（北杜市から佐久穂町）の整備計画区間への格上げを早期に実現すること。
2. 静岡・山梨・長野・新潟の4県を結ぶ「中部日本横断自動車道」の全線完成を早期に実現すること。
3. 環境保全・景観保護に十分配慮した道路整備を実現すること。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

平成24年3月16日

北杜市議会議長 秋山俊和

（提出先）

衆議院議長 横路孝弘 殿
参議院議長 平田健二 殿
内閣総理大臣 野田佳彦 殿
国土交通大臣 前田武志 殿
財務大臣 安住 淳 殿

○ 地元要望書

南佐久郡町村会、南佐久郡土木協議会、
南佐久地域の農協、商工会 他

平素、中部横断自動車道の建設促進につき
ましては、特段のご高配を賜り、厚くお礼申
し上げます。

お力添えをいただき、昨年3月26日に佐
久小諸ジャンクションから佐久南インターチ
ェンジまでの8.5Kmが開通しました。

この開通は、佐久地域の観光、産業など全

記

1. 基本計画区間である（仮称）八千穂イン
ターチェンジ ～ 山梨県（仮称）長坂ジ
ャンクション間について、早期に整備計画
へ格上げし、ネットワーク化が図られるよ
う、お力添えをお願い致します。

2. 佐久南インターチェンジ ～（仮称）八
千穂インターチェンジ間について、早期完
成に向け、特段の予算措置が講じられるよ
う、お力添えをお願い致します。

長野県南佐久郡町村会長 藤原忠彦
長野県川上村長
長野県南佐久郡土木協議会長 佐々木定男
長野県佐久穂町長

提言団体

団体名	氏名
佐久浅間農業協同組合長	棚澤今朝三
長野八ヶ岳農業協同組合長	由井和行
川上そ菜販売農業協同組合長	林利康
川上物産農業協同組合長	由井勝雄
佐久穂町商工会長	由井正隆
小海町商工会長	品田宗久
川上村商工会長	林長一
南牧村商工会長	滝沢恒夫
南相木村商工会長	菊池紀美夫
北相木村商工会長	井出勝城

提言町村

町村名	町村長名
長野県小海町	新井寿一
長野県佐久穂町	佐々木定男
長野県川上村	藤原忠彦
長野県南牧村	菊池幸彦
長野県南相木村	菊池毅彦
長野県北相木村	井出玄明

平成24年 2月14日

関東地方整備局道路部道路計画第一課長

甲斐一洋様

要 望 書

(中部横断自動車道の早期全線開通について)



りでなく、医療過疎地域への救急搬送手段の提供など多様な住民福祉を提供する機能も兼ね備える、沿線住民の生活にも密接した「命の道」であります。

また、中部横断自動車道は、静岡、山梨、長野、新潟の4県を結び、東名、新東名、中央、関越、北陸の5つの高速道路と接続し、「関東大環状連携軸」を形成する路線となり、物流体系の再編、交流圏の拡大、広域的観光ゾーンの形成などを促進し、交流人口の創出に大きく貢献する「真に必要な道路」であり、その整備効果は計り知れないものがあります。

高速道路はネットワーク化されてこそ、その効果を発揮するものであるにもかかわらず、中部横断自動車道には基本計画区間が残されており、真の効果を最大限に発揮するには、このミッシングリンクの解消が急務であると認識しております。

つきましては、下記のとおり中部横断自動車道の早期全線整備を強く要望するものであります。

平素、中部横断自動車道の建設促進につきましては、特段のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

お力添えをいただき、昨年3月26日には佐久小諸ジャンクションから佐久南インターチェンジまでの8.5kmが開通いたしました。

この開通は、全線開通に向けた大きな前進であり、開通区間地域における交通渋滞の緩和や地域間移動の時間短縮など、すでにその整備効果を実感しております。

さて、高速道路は、日本の経済を支える物流の要であり、人々の暮らしを支える生命線でありま

記

1. 基本計画区間である八千穂インターチェンジ(仮称)ー山梨県長坂ジャンクション(仮称)間の早期整備計画区間への格上げ
2. 佐久南インターチェンジー八千穂インターチェンジ(仮称)間の早期供用開始

長野県佐久市議会

議長 中澤 兵衛



高速交通網特別委員会

委員長 市川 稔宣

副委員長 小林 松子

委員 木内 昌明

委員 小林 貴幸

委員 神津 正

委員 佐藤 悦生

委員 大井 岳夫

委員 小山 仁志

委員 並木 茂徳



○ 地元要望書

山梨県高速道路整備促進期成同盟会 中部横断自動車道整備促進山梨県峡北地域連絡協議会他

平成23年度

中部横断自動車道の早期実現と 中央自動車道の拡幅整備促進等に関する要望書

中部横断自動車道の早期実現と 中央自動車道の拡幅整備促進等について

山梨県内の高速道路の整備促進につきましては、平素から格別の御高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

道路は、県民の社会経済活動を支える、最も基礎的な社会資本であり、なかでも高速道路は、災害時の緊急輸送や医療施設への救急搬送など、「命の道」として重要な機能を果たすと同時に、地域間の連携の強化、物流の効率化による経済活動の活発化など、地域社会の発展に大きく貢献するものです。

このうち、太平洋と日本海を結び、新たな高速道路網を形成する中部横断自動車道は、静岡・山梨・長野各県の交流・連携を強化し、沿線地域の産業、経済、観光、文化等の振興・発展に寄与するものであり、早期の全線開通が望まれております。

また、我が国の三大都市圏を結ぶ中央自動車道の小仏トンネル付近において、慢性的に発生している交通渋滞を解消し、国土の大動脈としての交通機能を十分確保する必要があります。

つきましては、中部横断自動車道の早期全線開通と中央自動車道の機能確保等を図るため、次の事項について特段の御配慮を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

要望事項

- (1) 中部横断自動車道の増穂以南については、平成29年度までの全線開通を図ること。
- (2) 中部横断自動車道の北杜市から佐久穂町間の基本計画区間について、早期に整備計画区間に格上げすること。
(注)
- (3) 中央自動車道の小仏トンネル付近の調査を促進し、早期に拡幅整備計画を策定すること。
- (4) 東富士五湖道路から新東名高速道路までの道路整備を推進すること。
- (5) 高速道路利用者の利便性の向上と地域の活性化、物流の効率化等に寄与するスマートインターチェンジ及び地域活性化インターチェンジの整備を推進すること。
(笛吹・談合坂・甲府・身延山など) ※ (名称はすべて仮称)

(注)

- ・ 現在、「計画段階評価の試行」の対象箇所として、住民や道路利用者からアンケートで意見を伺うなどのコミュニケーション活動が行われている。
- ・ コミュニケーション活動の結果を踏まえた審議が、社会資本整備審議会の関東地方小委員会で行われると聞いている。
- ・ この区間が、早期に基本計画区間から整備計画区間に格上げされ、事業化されるためにも、整備を望む地元の声を国土交通省をはじめとする国の機関へ伝えることが大変重要であると考えている。

平成24年 月 日

山梨県高速道路整備促進期成同盟会

会長 山梨県知事 横内 正明

中部横断自動車道整備促進山梨県峡北地域連絡協議会

会長 北杜市長 白倉 政司

甲西道路・中部横断自動車道(増穂・双葉)建設促進連絡協議会

会長 富士川町長 志村 学

中部横断自動車道(富沢・増穂)建設促進連絡協議会

会長 身延町長 望月 仁司

○ 地元要望書

北杜市商工会、観光協会、青年会議所シニアクラブ

中部横断自動車道の早期実現の要望

中部横断自動車道は、日本列島の中央部で太平洋と日本海を結ぶ高速道路ですが、北杜市～佐久穂町間（L＝34km）が基本計画区間となっており、未だに全線の整備がいつになるかわからない状況です。

中部横断自動車道の実現は、山梨県と長野県にまたがるハヶ岳地域の清里や野辺山などを含む広域的観光ゾーンの形成や、生産された農産物の出荷などの運搬時間短縮、本市や沿線市町村の産業・経済・観光・文化等に大きな活力を与えるなど、計り知れない整備効果をもたらすものと大きく期待し、その早期実現を強く望んでいます。

昨年、3月11日に発生した東日本大震災では、高速道路が早期に復旧開通し、緊急輸送の中心となるなど、救助・救援活動において大きな効果を発揮しました。

東海地震などの大きな災害が予想される当地域において、中部横断自動車道は、広域的防災体制の強化とともに、緊急輸送路としての役割を持つなど、防災、住民の安全安心に無くてはならない道路です。

つきましては、こうした道路整備の重要性を御理解いただき、次の事項について、特段のご配慮を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

要望事項

- (1) 基本計画区間（北杜市～佐久穂町間）を整備計画区間へ格上げし、早期の整備を図ること
- (2) 中部横断自動車道の全線完成を早期に実現すること
- (3) 環境保全・景観保護に十分に配慮した道路整備を実現すること

平成24年 2月28日

山梨県北杜市商工会

会長 輿水 順彦



山梨県北杜市観光協会

会長 浅川 カ



山梨県北杜市青年会議所シニアクラブ

会長 小島



○ 地元要望書

山梨県商工会連合会等12団体

中部横断自動車道の早期実現の要望

中部横断自動車道は、日本列島の中央部で太平洋と日本海を結ぶ高速道路で、新東名高速道路～増穂間と八千穂～佐久南間が工事中であり、また、長坂～八千穂間は基本計画区間となっています。

中部横断自動車道が全線開通すると、山梨県が静岡県や長野県と結ばれるだけでなく、東名・新東名・中央・上信越の各高速道路が接続されるため、工業製品や農産物の運搬や、広域的な観光客の増加などに良い影響をもたらし、沿線市町村、更には山梨全県の産業・経済・観光・文化等の大きな活力になるものと大きく期待を寄せ、早期の実現を願ってやみません。

東海地震等の大規模災害が発生した場合に、中部横断自動車道が、当地域における緊急輸送路として重要な機能を持つ道路であることは、昨年発生した東日本大震災で、高速道路がいち早く復旧開通し、緊急輸送の中心となり救助・救援活動において大きな役割を果たしたことが示しています。また、平常時においても、病人の緊急搬送に役立つなど、住民の安全安心のための道路であります。

つきましては、こうした高速道路整備の重要性を御理解いただき、次の事項について、特段のご配慮を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

要望事項

1. 現在、工事している新東名高速道路～増穂インターチェンジ間について、平成29年度までに開通を図ること
2. 基本計画区間（長坂～八千穂間）を整備計画区間へ格上げし、整備すること

〒400-0222
山梨県南アルプス市飯野2812
南アルプス市商工会

会長 小林寛樹

山梨県韮崎市本町一丁目5番25号
韮崎市商工会

会長 高野豊村

山梨県南巨摩郡南部町南部8427番地5
南部町商工会

会長 市川 巖

山梨県南巨摩郡富士川町青柳町319-1

富士川町商工会

会長 入倉治彦

山梨県南巨摩郡身延町身延2483-36
身延町商工会

山梨県韮崎市石和町唐柏1,000番地の7
山梨県トラック協会
会長 石原行彦

平成24年 2月28日

山梨県甲府市飯田二丁目2番1号

山梨県商工会連合会
会長 竹井清八

山梨県甲府市飯田二丁目2番1号

山梨県中小企業団体中央会
会長 内藤悦次

山梨県甲府市飯田一丁目1番20号
山梨県農業協同組合中央会
会長 廣瀬久徳

藤 基 通

尺 雄 二

秋 山 詔 樹

己 喜 雄